



2008年5月1日
発行
山梨大学
医学部附属病院

病院の理念

一人ひとりが満足できる病院

病院の理念の主旨

私たちは、本院の使命を達成するため、医療を受ける人、医療に携わる人など、本院を利用する方一人ひとりが満足できる病院をつくりたい。

病院の目標

- ・共に考える医療
- ・効率の良い医療
- ・質の高い医療
- ・良い医療人の育成
- ・快適な医療環境

退任挨拶

神経内科 前教授 塩 沢 全 司



平成20年3月を以って、神経内科教授を退任することになりました。昭和58年4月山梨医科大学第三内科助教授として山梨に着任して以来25年、神経内科教授を拝命して以来10年の長きにわたり、学内外の皆様には大変お世話になりました。ここに深く御礼を申し上げます。お陰を持ちまして、山梨に神経内科の芽を植え付け、育て上げることができました。まだまだ不完全ではありますが、診療科から講座への移行も可能となりました。老兵は消え去るのみです。今後は若い皆様によって更に前進することを期待しております。

私が行った研究は、臨床に根ざした研究であり、臨床の中から新しい研究をし、新しい治療法を開拓することです。幸いにも、角田伸一先生、新藤和雅先生によって、臨床医学では難しいといわれてきたマイクロニューログラフィー（微小神経電図法）を人体に応用し、これにより交感神経を直接記録することによって、他人がなし得なかった神経疾患のメカニズムの解明ができるようになりました。最も難治といわれた筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対して、交感神経が亢進することを見出しました。新藤先生のテクニックは昨年10月に京都で行われた国際自律神経学会のhands-on-seminarで見事に認められました。更に、MRIなどの画像診断においても、放射線科の大場洋先生、病理学小林慎雄先生のご協力によりALSでは大脳運動野を中心に鉄の沈着を明らかにすることができました。これらの所見は、ALSの大脳運動野が早期老化状態である可能性を示唆しており、今後の研究の発展が期待されます。一方、第一生化学前田秀一郎教授、藤田学園松澤健夫教授のご指導により、神経疾患の遺伝子検索が可能となり、amyroido-polyneuropathy（富樫慎治先生）、neuroferritinopathy（太田恵美子先生）、Creutzfeldt-Jakob病

（長坂高村先生、長坂加織先生、新藤和雅先生）、orunithin-aminotransferase gene異常による脳回転状網膜脈絡膜萎縮症など、国際的に価値のある研究が発表できました。

教育については、本学の教育委員会の一員となり、吉田洋二前学長の要請を受け本校の医学部とアイオワ大学医学部とが姉妹校として締結し、医学生を派遣し、本校卒業生が本学を卒業して直ちに米国レジデントとして就職できたことは画期的な出来事でした。また、平成10年本学にオスキーを開始しました。平成19年10月田村康二名誉教授、藤井秀樹教授らと金原出版社から“オスキーへの手引き”を出版できたことは身に余る光栄でした。

診療については、本院で毎日神経内科外来を行い、筋無力症友の会、ALS友の会、脊髄小脳変性症の会、Creutzfeldt-Jakob病、スモンの会など、山梨県内の難病患者の支援を行い、それらの患者の会の発展に協力をして参りました。病床数は発足当初は6床、現在では13床となりましたが、現在の患者の入院希望はさらに強く満床を超えて20床というときもあり、悲鳴をあげている状況です。このような患者さんの治療を行うにあたっては、まず患者さんに親切に対応してお世話することをモットーにしており、新藤、長坂、太田先生をはじめ医局員の皆様には本当にお世話になりました。

山梨は、山紫水明であり、何よりも水がおいしい。四季折々の果実が豊富にあり、人の情けも暖かく、いつまでも山梨に住みたいと願うのは私だけではないでしょう。機会があれば、また山梨に来て、山梨の自然、人との交流を味わいたい。人の和を大切に山梨を忘れずに生きてゆきたいと思っております。山梨大学医学部のさらなる発展を願って、私の退任挨拶と致します。

医学部各課・附属病院職員新体制

病院長 星 和彦	副病院長 藤井 秀樹	副病院長 久木山 清貴	副病院長 島田 眞路
副病院長 佐藤 弥	副病院長 鈴木 久美子	事務部長 有井 博文	
総務課長  山本 慎一	管理課長  丸田 由男	病院経営企画室長  山田 徹	
総務課 補佐 相川 勝則	管理課 補佐 大柴 幸司	栄養管理部 副部長 小林 貴子	
医事課長 堀口 幸典	医事課 補佐 矢澤 泉	医事課 補佐 (安全担当) 高山 俊雄	
		医事課 補佐 (患者支援担当) 丸山 さとみ	

看護部長 鈴木 久美子	副看護部長 (総務担当) 樋口 順子	副看護部長 (業務担当) 新田 妙子	副看護部長 (教育担当) 手塚 とみ江
	看護師長	副看護師長	管理室
7階東病棟	石川 みゆき	廣瀬 美菜子 河西 典子	安全対策看護師長 岩下 直美
6階東病棟	望月 恵美	三枝 栄江 島田 昌子 金子春美 林 博美	
5階東病棟	佐藤 あけみ	村松 陽子 小尾 きよ美 三平 まゆみ	感染対策看護師長 堀口 まり子
4階東病棟	萩原 千代子	矢崎 正浩 網野 真紀 岩澤 久美	
3階東病棟	花輪 ゆみ子	小泉 夫美子 竹田 礼子	情報担当看護師長 長田 玉枝
2階東病棟	小澤 和子	井上 江里 原 克枝	
7階西病棟	古屋 塩美	中嶋 君江 渡辺 理映子 武田 陽子	緩和ケア認定看護師 看護師長 井上 貴美
6階西病棟	伏見 ます美	牧野 基美 戸栗 宏子 佐野 美樹	
5階西病棟	齋藤 幸美	今井 恵美 野澤 紀子 長田 梨奈	教育担当看護師長 五味 美香
4階西病棟	岡村真由美	伊藤 雅美 大芝 まゆみ 中沢 菊美	
3階西病棟	小野 さつき	茶谷 直子 中澤 緑 小林 知津子	教育担当 副看護師長 茂手木 道子
2階西病棟	高野 和美	山本 秀美 山本 ゆかり 中野 美幸	
1階西病棟	杉田 節子	赤池 陽子 宮澤 一恵 田中 紳子	治験担当看護師長 神山 由美
ICU	杉山 千里	平野 みのり 永田 明子	
外来・中診	甲田 壽美子	辻 稔 武田 優子 佐野 好枝	管理夜勤 副看護師長 深澤 紀代美 大山 小百合
医療福祉支援センター	有田 明美		
手術部	小林 ひとみ	北井 朋美 飯野 ちあき 山口 奈巳	皮膚排泄ケア認定 看護師 副看護師長 金丸 明美
材料部	秋山 栄		

卒後臨床研修センターから

副病院長 藤井 秀樹



平成18年度の研修医22名の研修が無事終了しました。研修医の皆さんの真摯な努力もさることながら、関係各位のご努力に心より御礼申し上げます。

平成20年度の研修医は38名の予定ですが、本院の研修医の定員は60名であり、本学卒業生の定着を図るべくさらに努力が必要であると思います。その一環として、卒後臨床研修センターでは平成20年1月12日に「研修医と語る会」を開催し、そこで研修医の皆さんの貴重な意見を頂きました。それらの意見を参考に、卒後臨床研修プログラムの改定に取り組んでいます。より柔軟で研修医の皆さんの立場に立ったプログラムこそが最も重要と考えています。具体的には21年度からは必修

研修のうち小児科、精神神経科、産婦人科を研修1年目で選択可能とし、また2年目の選択科を3か月2クールから、1.5か月4クールとし、より多くの科で研修できるようにする予定です。また研修環境の整備も重要でハードとしての卒後臨床研修センターの設置を計画していますが、何分にも予算が必要なことであり難しい課題ですが、少しずつ着実に進んでいます。

卒後臨床研修制度は未だ多くの問題を包含していますが、さまざまな制約のなかでこの制度が、真に研修医が自らの将来に希望を持ち、医師としてしっかり歩んでゆく礎となるように努力して参りたいと思っております。今後ともご協力のほどお願い致します。

7対1看護配置実現にむけて

看護部長 鈴木 久美子



昨年度、星病院長のご協力により看護師確保対策WGを立ち上げ、副病院長をはじめ看護学科の先生方、総務課・病院経営企画室の事務職員等の多くの皆様のご尽力により、今年度100名の看護師を採用することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、就職ガイダンスにご協力いただいた医師の皆様、インターンシップや病院見学等の対応をしてくれた看護師の皆様へ深く感謝申し上げます。

さて、21年7月に7対1看護配置実現にむけて、今年度もなお一層看護師確保対策に努めなければなりません。募集対策として、学校訪問、就職ガイダ

ンス、インターンシップ等を5月から予定しております。同時に定着率を向上させるために、教育体制の充実を図り今年度採用した新人の辞職者をなくすことは勿論のこと、看護師の職務満足度を高め、辞職者を減らす対策をとっていきたいと考えています。

さらに、看護師増員に伴い、職員宿舎の整備が必要になり、鴻臚館横の空き地に、3階建、オール電化方式、ワンルーム形式42戸が平成21年2月竣工予定になっています。

今年度は、本院の「看護師の品格」と「看護の質」との両面を大切にしながら、看護師確保対策に取り組むたいと思っておりますので、今後とも皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

デンタルインプラントの治療体制を拡充しました

歯科口腔外科 科長 原田 清



歯科口腔外科では、デンタルインプラント治療を平成18年度から本格的に開始し、徐々に患者さんが増えてきたことから本年1月からインプラント専門外来として対応してきました。しかし、専門外来では患者さんの認知度がいま一つ低いため、本年4月から患者さんの受け入れ・治療体制を診療科並みに充実することになりました。

現在山梨県内の病院歯科口腔外科で、インプラント治療を本格的に導入している施設はありません。また県内の歯科医院でも、インプラント治療を行うところは限られています。しかも歯科医院の場合、難易度の高い症例は適応外として扱われているケー

スも多いようです。しかし、難易度とは無関係に患者さんのインプラント治療に対するニーズは確実に高まっており、県内では一般的ではないため、わざわざ東京まで出向いて治療を受けている患者さんがいるという話も聞きます。

このような県内の患者さんのニーズにお応えするためにも、デンタルインプラントの治療体制を拡充することには意味があります。デンタルインプラントの治療体制を充実させることにより、本院が県内デンタルインプラントの中核病院となって質の高い治療を提供すると同時に、治療件数が増えることによって本院の病院収入にも貢献したいと考えております。皆様の温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

入院患者家族専用パスカードの導入について

総務課 補佐 相川 勝 則

平成20年1月15日から、入院患者家族専用パスカードを導入いたしました。この導入は、病棟における駐車場の無料化パンチ対応が日常の看護業務に支障を与え、特に、夜間並びに土・日・祝日の見舞いに来られる方が多い日には、その対応に苦慮していたことから検討されました。また、患者さんの声の中にも「その都度、看護師さんに無料パンチをしてもらうのは、ナースステーションにいない時等もあり、忙しい中、大変心苦しい。家族が無料で駐車できる何か別の方法を検討してほしい」との声もあり

ました。

このような無料化措置に対する看護師さんの負担を軽減するために、今まで、病棟で行っていた付添い等家族への無料化措置（無料パンチ）を廃止し、その代替として、入院患者家族用のパスカードを導入したものです。

導入後、3か月余りを経過いたしました。特に支障もなく、患者さんから感謝の声を頂くなど、大変好評をいただいております。

駐車場に関する患者さんの声



以前、「午前10時の駐車場対策」をお願いした者です。さっそく増設してくださりありがとうございました。また、寒い中、係の方にも案内をいただきスムーズに駐車できるようになり感謝いたします。また、入院患者家族のパスカードも作って下さり大変便利に利用させていただいております。ありがとうございます。今までのパンチと比較して看護師さんたちの雑用もグッと減ったのではないのでしょうか。その分、医療・看護に集中してこまやかに対応していただいていると実感しています。駐車場とパスカードの導入、大がかりな設営をありがとうございます。

2008.2.7 氏名：〇〇〇〇 住所：南アルプス市

肝疾患診療連携拠点病院について

第一内科 科長 榎本 信幸



本院は平成20年度より山梨県における「肝疾患診療連携拠点病院」に指定されました。

現在、国内、特に山梨県においては、大変多くのB型およびC型肝炎ウイルスに感染されている方がおられます。これらのウイルスを放置すると慢性肝炎から肝硬変、肝がんが引き起こされることから、感染の早期発見および適切な治療が大変重要です。しかし、これらは無症状であることから、ご本人は気がつかれないまま過ごされ、病気が大変進行してから初めて病院を受診されることも少なくありません。あるいは肝炎ウイルスに対する適切な治療を受けるためにはどのようにしたら良いかの情報も十分ではありませんでした。

このような状況を改善するため本院では、これまでも最新の肝臓病の医療の推進、県内の医療機関との連携、市民の皆さんへの情報提供活動に取り組んでまいりました。一方、山梨県は平成19年度からは

「肝炎サポートネットワーク推進事業」を開始し、肝炎ウイルスに感染されている方々がより円滑に適切な医療を受けられる環境の整備に取り組んでおりました。このような中で、平成20年度からは本院が肝疾患診療連携拠点病院となり、山梨県内における肝炎・肝臓病医療の中核として活動することとなりました。

ウイルス肝炎は、診断法、治療法も急速に進歩しつつあり、数年前には治癒が難しい状態であったものが現在では治療可能となった方が大変増えております。さらに数年以内には画期的な特効薬の実用化が期待されています。したがって、患者さんお一人お一人にあった適切な治療を受けていただくことが非常に重要です。今後本院は肝疾患診療連携拠点病院として、本院を受診される方はもちろんのこと山梨県全体で肝炎に取り組まれている方々が最適な治療を受けられますように活動する予定です。どうかよろしくお願い申し上げます。

今年も「病院全体がひとつのチーム」で頑張りましょう

安全管理室 GRM 岩下直美



新しい年度を迎え、院内のあちらこちらに“新人さん”らしい職員を見かけます。

「病院は楽しい」と感じられるような仕事を一緒にしたいと思います。そのためには、“新人さん”がインシデントを引き起こさないように、先輩のちょっとした言葉がけや行動が大切です。

平成19年度のインシデントレポートの約1割が“新人さん”からの報告でした。今年度は、昨年度を上回る多くの“新人さん”を迎えています。医療事故の多くは、不安全な状態に不安全な行動が重なって起こっています。不安全な状態を見つけたら「安全な状態」にしてください。安全な状態を保つ秘訣は5S活動の実施です。5Sは、「整理・整頓・清掃・清潔・躰」のことです。皆さんの職場環境はいかがでしょう。また、“新人さん”の不安

全な行動を見かけたらアドバイスをお願いします。患者間違いを起こさないための「フルネームによる氏名確認」「患者さん自身に名乗ってもらう」「リストバンドの確認」「PDAの実施」は勿論、薬剤間違いを起こさないための5Rの実践もお忘れなく。5Rは、「正しい患者・正しい薬剤名・正しい量・正しい投与経路・正しい時間」です。特に、急いでいる時、疲れている時、不慣れな時には不安全な行動を起こしやすくなります。そのような時は、ポンと肩を叩いて声をかけてください。

病院の理念である「一人ひとりが満足できる病院」を“新人さん”も実感できるように、「病院全体がひとつのチーム」になって基本を大切にした新人教育の実践をお願いします。

まずは、医療安全に関するエッセンスが凝集された医療スタッフマニュアルを必ず携帯し活用しましょう。

平成20年度診療報酬改定について

医事課 診療報酬請求グループリーダー 伏見幸夫

平成20年度診療報酬改定は、「患者さんからみて分かりやすく、患者さんの生活の質を高める医療を実現」「後期高齢者医療制度における診療報酬」等を基本方針に改定されました。主な内容としては、医療費の内容の情報提供、生活を重視した医療、がん医療の推進及び医療安全の推進と新規技術の評価等があります。また、患者さんの窓口での負担額は、3歳から小学校に入学するまでのお子さんの場合、3割から2割に軽減され、70歳～74歳の方(一部の方を除く)の2割負担へ見直されることとされていたものが、平成21年3月まで1割に据え置かれ

ることとなりました。

以上のように、今回の改定も、診療を受ける患者さんの立場を重視したものとなっております。個々の保険医療機関は、改定の趣旨を踏まえ、今まで以上に、患者さんの立場に基づいた診療が求められています。今回の改定を機に、私ども病院職員も、本院の理念である「一人ひとりが満足できる病院」を再認識し、更なる努力をしていきたいと思っております。

なお、診療報酬改定に関する質問等がございましたら、医事課窓口までお問い合わせください。

平成20年度研修会の開催日程

研修会等名	目的	受講対象者	実施予定	担当部署
特別講演会	医療事故防止に関する認識の高揚を図るとともに安全管理のための方策について周知徹底を図る	病院関係職員	2回/年度	安全管理室・医事課
事例検討会	事例を通してコミュニケーションの重要性を体験する	病院関係職員	20. 6. 5, 20. 7.24 20. 9.29, 21. 1. 7	安全管理室・医事課
医療安全活動報告会	安全確保の取り組みを報告を通して安全意識の向上を図る	病院関係職員	20.10. 8 21. 2. 3	安全管理室・医事課
AED研修	AED使用の実技を学ぶ	病院関係職員	2回/年度	安全管理室・医事課
感染対策研修会	感染対策に関する知識を深める	全病院職員	20. 9 20.12	医学部総務課
新採用職員研修	職員としての使命と心構えを自覚させ、併せて初任者としての必要な基礎知識、技能および態度を養成する	新採用職員	20. 4 20. 8 20.10 21. 1	医学部総務課
院内医療安全・感染対策及び個人情報保護法関係研修会	事業所各社従業員の安全管理・院内感染及び個人情報保護法などについての共通した知識及び意識を習得する	院内パート職員、院内事業所関係者	20. 6	医学部総務課

「平成20年度研修 看護部新採用者看護技術トレーニング」

看護部 師長 五味 美香

去る3月8・9・15・16日の4日間にわたり、新卒者を中心とした87名が参加し、平成20年度の入職前看護技術トレーニングを実施しました。平成21年度の7対1看護配置取得に向け、各部門の皆様のご尽力により、多くの新採用者を迎える準備ができ、各セクションにも例年以上に多くの新採用者が配置されることとなります。「基本的看護技術を習得する。入職前の不安が軽減でき入職準備ができる」ことを研修目的に、新採用者から希望の多かった「点滴静脈注射の管理」「膀胱カテーテル挿入と管理」「吸引」の3つの看護技術のトレーニングを企画しました。

教育委員・プリセプターからのきめ細かい指導に

研修生からも「小人数で丁寧にじっくり指導を受けられた」「看護技術だけでなく病院の様子も聞くことができ安心した」「吸引を実際に行い患者体験できた事で自信につながった」「4月から頑張りたい」などと好評でした。

4月1日から8日までの集合研修後、9日からセクション配置になりましたので、どうぞ一人ひとりを温かく見守りつつ、病院全体で大切に育てていけるようご協力ください。



技術トレーニングの様子

平成20年度山梨大学医学部新採用職員研修を終えて

総務課人事G 研修担当 牧元 祐紀

平成20年度山梨大学医学部新採用職員研修を、4月1日から8日まで、看護職員、研修医、医員、病院職員等の156名の参加により、臨床講義棟大講義室及び小講義室等において開催しました。

1日目は全参加者が合同で大学及び附属病院の役割・概要・病院経営・教育、チーム医療について、病院経営について、医療事故防止と感染対策、個人情報保護法等についての講義を受講し、2日目は、病院の各組織についての講義及びメンタルヘルスについての講義を受講しました。3日目は、接遇研修を専門講師により実施しました。

4日目以降は、職種毎に分かれて実践的な実習を実施しました。

本研修会の特色として、1日間かけて行った接遇

研修があり、参加者の評判もよく、大変参考になったようです。

研修医に対しては、オーダリング実習、手洗い実習及び輸液ポンプ・シリンジポンプの取扱い実習を行い好評でした。

また、救急部主催の救急研修を2日間受講することにより、2種類の公式資格を取得できました。

新採用職員研修については、中途採用者もいるため、本研修会以外に年3回の研修を計画しております。



星病院長の挨拶

がんプロフェッショナル養成プランについて

血液内科 科長 小松 則夫



平成19年度から施行されたがん対策基本法は、「がんの予防及び早期発見の推進」、「がん医療の均てん化の促進」、「がん研究の推進」を基本理念としています。なかでも「がん医療の均てん化の促進」は日本のどこに居住していても日本のトップクラスの医療機関と同じレベルのがん治療が受けられるようにすることを目的としています。そのためにはがん医療の担い手となる質の高いがん専門医等を養成しなければなりません。その取り組みを支援する新規事業として文部科学省は国公立大学を対象に「がんプロフェッショナル養成プラン」を公募し、山梨大学医学部を含む8大学12研究科が共同申請した「南関東圏における先進的がん専門家の育成」が採択されました。

本学は平成20年度から各診療科の基盤学会の認定医ないし専門医を取得した医師を対象に、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を修得することを目的に、「がん薬物療法専門医コース」と「がん治療認定医コース」の2種類の『インテンシブコース』を開設しました。がん薬物療法専門医コースでは日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医認定試験に求められる資格取得に相応しい能力を身につけることができます。がん治療認定医コースでは日本がん治療認定機構が認定するがん治療認定医取得のための短期集中講義を受講することができます。

学内外を問わず、将来の山梨県のがん医療を担う若い医師の参加をお待ちしています。詳細は附属病院のホームページをご覧ください。

クリニカルパスのキーワード①「アウトカム」について



クリニカルパスには、聞きなれないキーワードがいくつかあります。このキーワードについて、何回かに分けて紹介させていただきたいと思います。

パス用語としての「アウトカム」とは、診療目標のことを言います。数日間以上の入院の場合は、「アウトカム」として、中間アウトカムと退院アウトカムの2種類を設定するのが良いと思います。我々が使用しているクリニカルパス「腎生検パス」での診療目標を例に挙げれば、重要なのは、A中間アウトカム：評価に耐える充分量の組織標本が得られることと、B退院アウトカム：合併症なく安全に予定通り退院できることの2つになります。診療目標「=アウトカム」が達成できないことが「バリエーション」であり、例を挙げれば、A-1検査中に安静が保てず検査が出来なかった或いはB-2検査後大出血をして輸血が必要になった等は、「アウトカム」が達成できなかったことになるので「バリエーション」が生じたことになります。「バリエーション」が生じたからといって、恐れる必要はなく、それに対応する診療をして、パス等に記録として残せば良いわけです。その日の「アウトカム」を複数設定しても何ら問題ありませんし、数日の間に「アウトカム」が達成されればよいと設定すること

クリニカルパス推進委員会委員長 東田 耕 輔

も出来ます。

その診療に見合った適切な「アウトカム」が設定されれば、方向性が明確になるので、研修医の診療内容も方向性を持つようになり、看護目標も立てやすくなり、そして働きやすくなります。

もうひとつ「アウトカム」に関連した重要な点は、「アウトカム」が達成できたか否かを評価する「観察項目」と「評価法(アセスメント)」が適切か否かということです。我々小児科の腎生検パスでは、「観察項目」として、看護師によるバイタルサインの変化や・痛みの観察、排尿のチェック、医師による超音波検査での数回に亘る血腫の観察、縫合部の評価、採血チェックなどを実施して、その結果を通して合併症の有無を「評価(アセスメント)」して、合併症の早期発見に努めています。なにを「観察項目」に選ぶのが最適かは、最も重要な点でかつ困難な部分です。以前にうまく行かなかった症例に、ヒントが隠されていると思いますが如何でしょうか？

新しくパスを作成される場合は、病棟のコンピュータから→iryoushareホルダー→院内共通→@クリニカルパス推進委員会ホルダと見て頂きますと、使用中のクリニカルパス、サンプルパス、作成のガイドライン、バリエーションコードがありますので是非御参照下さい。

医学部附属病院のオープンテラス(野外)開設について

事務部長 有井 博文



左から、鈴木看護部長、星病院長、里仁会佐藤理事長

昭和58年10月の病院開院以来、病院内の「売店」、「レストラン」、「食堂」、「喫茶」の果たす役割は、本院にとって極めて大きなものでありました。

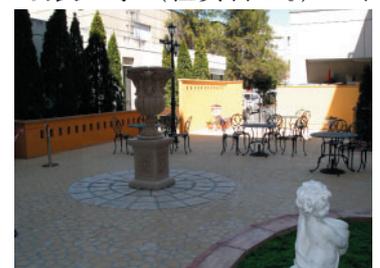
しかし、利用者サイドのニーズは大きく変化し、いろいろな要望が出されています。例えば、「売店」の24時間営業、価格の低廉化、販売品の拡大、「レストラン」のメニューの見直し(価格を含む)、清潔性の確保等々です。そして、近年の入院・外来患者数の増加に伴い、これらの施設の利用者も増えており、様々な対応が必要になっております。

このような状況を踏まえ、利用者サイドに立った改善・見直しの提案を広く求めていたところ、財団法人「里仁会」及び(株)文教から、「売店」の24時間営業(土・日・祝日を除く。)実施、コンビニと同価又はそれより安価な販売、「レストラン」の

全面的な改装及び「食堂」の一部改装の提案をいただきました。また、兼ねてより病院機能改善検討委員会で検討していた「レストラン」西側野外の改修に対して、オープンテラスを開設したいとの提案をいただき、これが本院の考えとも一致したため、病院として了承させていただいたところであります。

オープンテラスは、ヨーロッパ調にデザインされた落ち着いた色合いで、「レストラン(クロスカフェ)」からの眺めも以前に比べ大分違った雰囲気のものとなっています。このスペースは、職員、学生、患者さん、見舞者など、イートインコーナーとして談話・飲食にも利用可能です。

なお、今回の一連の改装工事(経費含む。)は、(株)文教のご協力によるものであることを付け加えておきます。また、オープンテラスは、平成20年4月1日からの利用開始となりました。



新設されたオープンテラス

ヴラダン・コチ祈りのコンサート

第一内科 副科長 佐藤 公



コチ氏(右)と中村氏(左)

去る3月12日、本院玄関ロビーにおいて、かつてドヴォルザークが院長をしていたプラハ音楽院教授のヴラダン・コチ氏とコチ氏に師事している中村理恵子氏(カルロヴィヴァリシンフォニーオーケストラ在籍)によるチェロのデュオコンサートが行われました。

このコチ氏のコンサートは、入院患者さんのひとときの慰めになればと行っており、今回で2回目となります。演奏いただいたコチ氏は『祈りのチェリスト』と呼ばれ、チェコスロバキアが旧ソ連の占領下にあった暗黒時代、軍事政権にくみせず兵役を拒否したため投獄された過去を持ち、自身の辛い囚人経験から、音楽を自分のキャリアや利益のために用いるのではなく、辛い状況にある人のために使おうと決心したとのこと。実際、『会場に集まれない人がいるのなら、私が病棟まで行きます』とも言ってくれました。今はプロの演奏家として活躍する傍ら、世界中でボランティアコンサートを開いています。

弟子である中村氏とともに、フランクフルト作曲のチェロ・ソナタや「早春賦」「さくら」といった日本の歌をはじめ、ジャズやタンゴなどバラエティに富んだ9曲を演奏すると、聴衆からの拍手が鳴り止まず、アンコールとしてロッシーニの曲が演奏され、美しく豊かなチェロの音色に100名を超える聴衆が聴き入っていました。最後に感謝の気持ちをこめ、聴衆を代表して3西病棟の子どもたちが花束をプレゼントしてくれました。

コンサートの開催に際し、星病院長、総務課の皆様、スケジュール調整などしていただいた山口豪様ご夫妻をはじめ多くの皆様にご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

3階西病棟「人形劇の会」

小児科 講師 犬飼 岳 史



人形劇「あいさつの
きれいな王さま」

去る3月25日に人形劇の会が開かれました。この会は、長期入院している子供達に「治療や検査を乗り切るためのエネルギーを送りたい」という目的で、日本財団(船舶振興会)のサポートのもとに、のぞみ財団(がんの子供を守る会)が行う全国事業の一環として開催されたものです。

上演されたのは、NHKテレビにも出演した「人形劇団オフィスやまいも」による「あいさつのきれいな王さま」です。物語は、たくさんの挨拶にウンザリした王様が「挨拶を禁止する!」とおふれを出すことから始まり、劇団の人達と一体化した人形の迫力に、子供達はたちまち物語の世界へと引き込まれていきました。そして挨拶を通じた人のつながりの大切さを感じた様子でした。舞台が仕立てられた病棟デイ・ルームは、数百個の色とりどりの風船も飾られてワクワクするような雰囲気にも包まれていました。そして会が終わり、持ちきれないぐらいたくさんの風船をもらって満面の笑みを浮かべる子供達の姿に、会の目的が十分に達せられたことを感じました。

最後に、熱演していただいた劇団の皆様と、会場の設営をしてくれた学生ボランティア・サークルsunny smileのメンバー、そして「がんの子供を守る会」の野々村かおりさんと押野カズミさんをはじめ開催にご尽力いただいた皆様にご礼申し上げます。

医療関連ものづくり交流会による第2号商品 トレンちゃん完成!

山梨TLO、山梨大学、甲府商工会議所で主催する「医療関連ものづくり交流会」の第2号商品である安全手袋「トレンちゃん」が完成し、1月17日に記者発表が行われました。

これは、意識のはっきりしない患者さんのチューブ抜去を防止するためのものです。透明で、ある程度指が動かせ、中の指の様子もわかります。また、手首の固定が取れないように工夫されていますが、脱着は簡単にできます。既存の商品の改善点を本院看護部が提案し、交流会会員である、(有)ピーユニットが自動車シート縫製の技術を活かし開発しました。中にゴムボールが入れられており、注意がチューブではなくボールに向けられるようです。筒が完全に閉じたものでないことから、通気もよく、患者さんのアメニティの向上も期待されます。3か月に亘って、数人の患者さんに試用していただきましたが、抜去事故もなく好評でした。



好評の
トレンちゃん

ご意見、投稿をお待ちしています。(ynoda@yamanashi.ac.jp 病院経営企画室内線2126)